

(新) 東アジア循環型社会ビジョン調査費

20百万円(0百万円)

廃棄物・リサイクル対策部 企画課

1. 背景

我が国は、2005年の3Rイニシアティブ閣僚会合において「ゴミゼロ国際化行動計画」を発表し、その中で2012年までに「東アジア循環型社会ビジョン」を策定することを明らかにした。「21世紀環境立国戦略」においても、東アジア全体での適正かつ円滑な資源循環を確保する観点から、同ビジョンの策定について盛り込まれた。

廃棄物を含めた循環資源の流れが、国内では完結せず国際的になっている今日、東アジアでの循環型社会構築に向けた基本的な考え方や目標を定めたビジョンを東アジア各国で共有することが求められている。

2. 事業内容

東アジア循環型社会ビジョンの策定に向け、

- ・ 国際的な循環資源に関する東アジア各国の意向の調査
- ・ 東アジアでの循環型社会の構築に向けた基本的な考え方の整理や目標の検討
- ・ 東アジア最大の資源消費国である中国との廃棄物回収・再生利用等に関する協力内容の検討
- ・ 廃棄物・中古品の定義付け（国際取引のルール化）など、具体的な取組の検討
- ・ 東アジアにおける資源循環の状況調査

等を行う。

3. 施策の効果

不適正な循環資源の国際移動に関する対策の強化

有害物の管理も含め、東アジア地域全体の環境負荷を低減

先進国の優れた技術を活用して、途上国ではリサイクル出来ない循環資源を有効活用

4. ビジョン策定までのスケジュール

2012年までにビジョンを策定するため、東アジアでバイやマルチの政策対話を重ねる。UNEPとWHOが事務局を務める「南東・東アジア環境と保健に関する地域フォーラム」の下に設置した廃棄物作業部会を、「アジア3R推進会議」のフォローアップの場と位置づけ、東アジアにおける3Rの推進、循環型社会の構築についての議論の場とする。

また、東アジア循環型社会ビジョンの基本的考え方の1番目に、

まず、各国で循環型社会を実現する必要があることから、途上国における3R推進計画の策定支援を継続して行っていく。

5. 備考

調査費 20,000千円

(内訳) 東アジア循環型社会ビジョン調査(民間団体1箇所)

国際的な循環型社会のビジョン

前提：それぞれの国において循環型社会を実現

- ・我が国において、モデルとなる取組を推進
- ・途上国での取組を支援

それぞれの循環資源の性質（有害性や資源価値）に即して、その国際的な移動に対応

途上国等での国内処理能力の向上

国内の循環を補完する国際循環

有害物の管理も含め、東アジア地域全体の環境負荷を低減

先進国では、優れた技術を活用して、他国ではリサイクルできない循環資源の有効活用

途上国では、労働集約的なリサイクルについては、低コストでリサイクル

国境における適切な管理

不適正な循環資源の国際移動に関する対策の強化

資源の有効利用等の観点から、循環資源の国際移動の円滑化の検討

